

吉田財団設立40周年記念事業

令和7年度 教材活用状況報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会  
理事長 山倉修一 殿

|                   |  |
|-------------------|--|
| 学校名               | 福岡県立輝翔館中等教育学校  |
| 学校長名              | 鹿田 智弘  |
| 報告者               | 鬼塚 晋吾  |
| 寄贈品               | 1. 大型ディスプレイ2台  |
| 《振り返り》            |  |
| 教育的課題             | 1. 中等教育学校故に通常の中学校・高等学校より多い学年数(6学年)<br>2. 1により通常の中学校・高等学校より多い行事数<br>3. 生徒の発表の機会確保のための環境整備   |
| 教材活用の狙い           | 1. 学年単位の特別活動の儀式的行事や講演会の円滑な実施<br>2. オンラインによる行事等の円滑な実施<br>3. 生徒の発表の機会確保による表現力等の資質・能力の育成  |
| 目的達成の為の工夫         | 1. 生徒の表現力育成に資する発表の機会と環境整備<br>2. オンラインにより会議室等から各教室へ配信する体制と環境の整備<br>3. 小集団、クラス単位等、全体発表前にスモールステップを準備  |
| 《教材活用の効果・成果》      |  |
| 活用状況及び、教育的課題の解決状況 | 1. 学年単位の総合的な学習(探究)の時間や行事における活用<br>2. オンラインによる行事の際、発信側のモニターとしての活用<br>3. 生徒の発表の機会確保に資する総合的な学習(探究)の時間や行事等を効果的に実施 (例:1年母校小学校訪問時の本校紹介、3年職業体験発表、4年異文化交流時の地域紹介、5年課題研究発表等) |
| 対象者・利用頻度          | 1. 学年単位の対面の行事では全学年が活用<br>2. オンラインによる行事では発信側で活用し、全校生徒に恩恵  |
| 目的達成状況            | 1. 外部団体での発表で生徒が入賞する等、表現力育成で一定の成果<br>2. オンラインによる行事を円滑に実施  |
| 教育的効果についての所見等     | 学年単位の対面の行事においても、各クラスから学校全体まで網羅できるオンラインの行事においても、教育的効果があり、全校生徒に恩恵があった。   |

## 活用状況の写真等(当日の様子など)

教育的課題:スモールステップを準備した生徒の発表機会確保による表現力の育成

※一部、寄贈品を活用していない活動も含まれます

※スモールステップとして、クラス内のグループでの発表(左)や、クラス内での発表(右)



※下級生も聴衆として参加した学年全体での発表



※オンラインでの儀式的行事における寄贈品の活用



## 今後の活用見通し・課題

今後も引き続き、生徒の表現力育成に資する発表の機会確保のため、各学年や発達段階に応じた取組を企画・推進していきたい。